

37 周防大島の文化財

安下庄のヤントセー踊り

安下庄に伝わる盆踊りのヤントセー踊りは、幕末の戊辰戦争に斃れた会津兵や長州兵を弔うために踊られた、白河踊りが伝わったものです。それを長州兵が萩に持ち帰り、三田尻に伝わり、三田尻に水夫として出稼ぎに行った安下庄の漁師たちが盆の休暇に帰って伝えたとも、秋地区の人が伝えたとも言われています。

平成30年、萩市の中原正男氏の戊辰戦争150年記念出版『白河踊り』によれば、県内83カ所に残っていて、白河音頭、ヤンサセー、ヤットセ踊り、ヤンソラ踊りなどと名を変えて伝えられています。

令和2年の2月に私が岩国市柱島の賀茂神社での講演で安下庄のヤントセーを歌ったら、柱島でもその歌を歌っているそうで、そうなら柱島は84カ所目ということになり、中原さんにそのことを伝えました。まだまだ県下には類例があるようです。

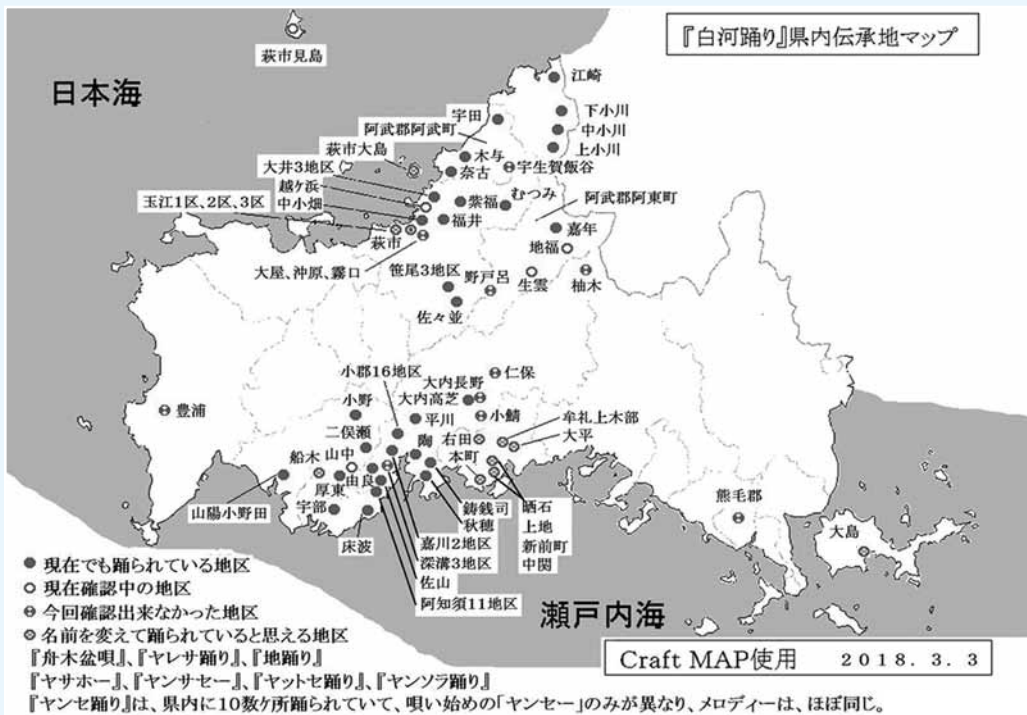
さて、安下庄のヤントセー踊りは、左手に締め太鼓を持ち、右手の一本杵で「ドンドンドン・ドンドド・ドンドド・ドンドド・ドン・カチ（縁）」と打ち、最初の「ドンドンドン」で両手を左右に振りながら右足から右回りに3歩前進。次の「ドンドド」3回で中央を向き右手右足を前に出します。太鼓打ちも足の運びは同じです。

▶安下庄の盆踊り大会でのヤントセー踊り／撮影：陳文卓氏

安下庄郷土会発行の『盆踊りの歌』によれば「現在、ただ手を上下に伸ばすだけの踊りは改悪されたもので、本格的には、扇子で踊ったり、優しい手つきの手踊りであった」とあります。インターネットの動画で萩市むつみ村の「むつみ白河踊り」を観ると曲はよく似ていますが所作が違います。萩市佐々並の「白河踊り」は3歩移動するところは同じですが右足を出すのではなく左足を引いています。歌詞は七・七・七・五調で、即興の歌詞や異性を誘う歌もあったようです。

それにしても敵味方の別なく弔いの踊りを、長州兵と共に踊ってくれた会津白河の民たちの気持ちを想わずにはられません。是非とも後世に伝えてゆきたいものです。

◀周防大島町文化財審議会委員 長尾健彦



◀資料提供…中原正男氏